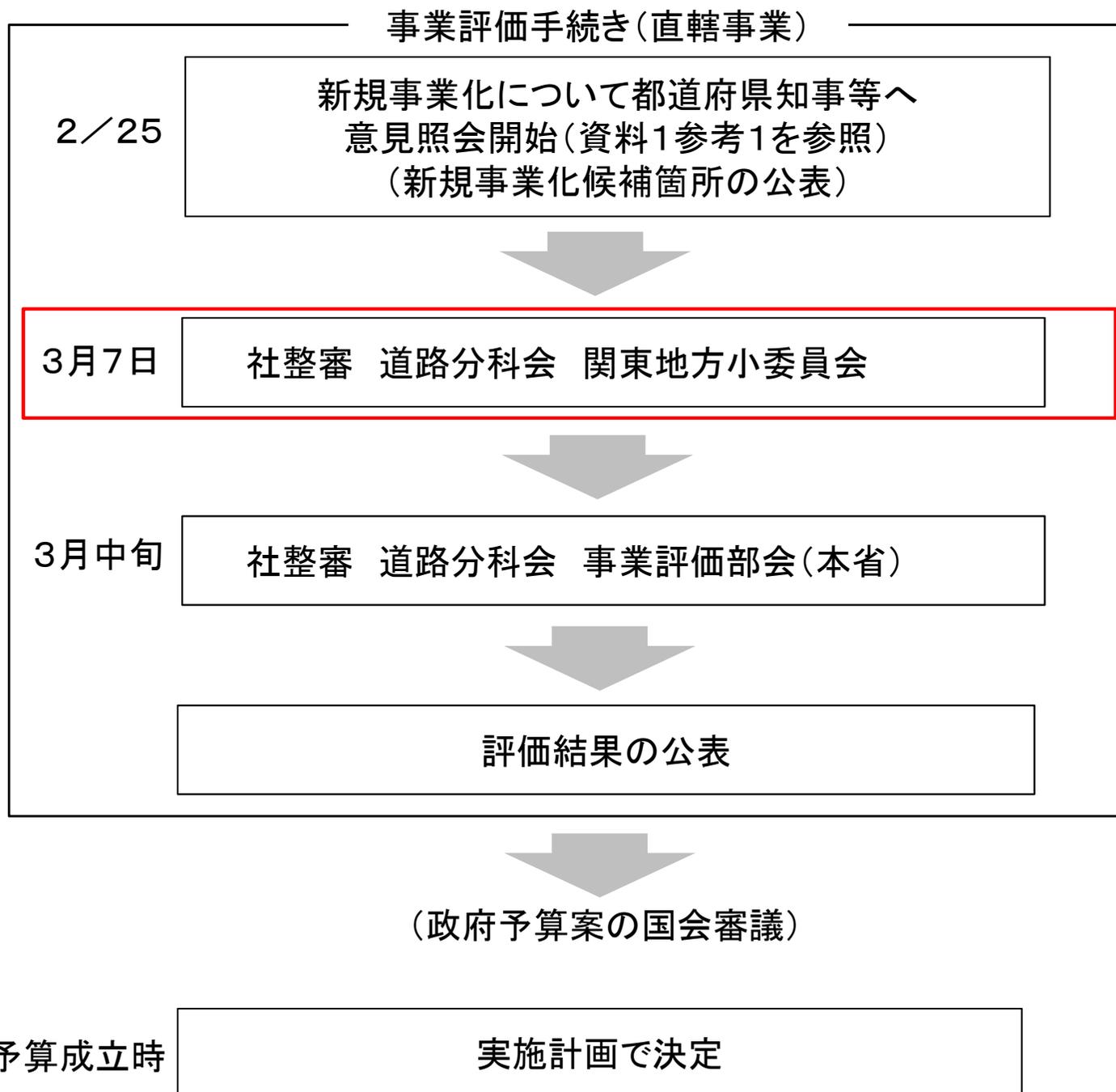


新規事業候補箇所の選定の考え方

◆平成26年度新規事業採択時評価の流れ(予定)



◆関東ブロックにおける新規事業化候補箇所の選定の考え方

1. 関東の直轄国道全線（約2,404km） 【2,055区間】

○道路交通センサス区間毎に分割

2. 課題箇所の抽出 指標のいずれかに該当 【1,460区間】

○指標

- ①社会経済：主要渋滞箇所が確認されている区間
- ②交通安全：事故危険区間が確認されている区間
- ③防災：要防災対策箇所及び津波浸水予想区域に該当する区間
- ④まちづくり：公的な面整備と一体的な整備が必要な区間

3. 課題解消に向けた改築事業を未実施の区間 【217区間(58箇所)】
※資料1 参考2を参照

4. 調査の熟度を確認 【109区間(33箇所)】
⇒上記区間のうち、都市計画決定等により詳細なルート・構造が確定したものを抽出

5. 周辺ネットワークの整備状況を確認
⇒ネットワーク形成の観点から次に着手すべき箇所であり、かつ隣接区間の整備に一定程度の目処がたったものを抽出

H26新規事業候補箇所の選定結果
一般国道 6号 牛久土浦バイパス（Ⅱ期）
一般国道246号 厚木秦野道路（伊勢原西～秦野中井）

課題	指標		判定	
①社会経済	渋滞箇所	主要渋滞箇所 が確認される 区間	主要渋滞箇所 に該当	主要渋滞箇所 公表資料 (H25.1)
②交通安全	事故危険 区間	事故危険区間 が確認される 区間	事故危険区間 に該当	地域の委員会 等で特定され た区間
③防災	要防災対 策箇所	要防災対策箇 所に該当する 区間	要防災対策箇 所に該当	要防災対策箇 所データ (H25)
	津波浸水 予想区域	津波浸水予想 区域に該当す る区間	津波浸水予想 区域に該当	各自治体ハ ザードマップ
④まち づくり	公的な面 整備箇所	公的な面整備 と一体的な整 備が必要な区 間	各自治体等の 開発計画に該 当	各自治体等の 開発計画

◆H24年度新規事業採択時評価の審議での主な意見と対応

<p>前回小委員会での主な意見 【H24.1.16関東地方小委員会（H23年度第3回）】</p>	<p>今回委員会における対応(案)</p>
<p>計画の熟度という観点がもう少し明らかになっていた方が分かりやすい。（課題を抽出した箇所について、①計画の検討状況、②段階的な整備の状況、③周辺ネットワークの整備状況の観点から計画の熟度を確認しているが内容に具体性がなくわかりづらい）</p>	<p>①については、「都市計画決定等により詳細なルート・構造が確定しているか」を確認していることを、選定フロー4. に明記した。</p> <p>②、③については、「ネットワーク形成の観点から、次に着手すべき箇所であり、かつ隣接区間の整備に一定程度の目処がたったもの」を抽出していることを、選定フロー5. に明記した。</p>
<p>ネットワークとして考えると効果があるというような結論の考え方をしたほうがいいのではないかと思います。</p>	<p>計画段階評価においては、路線全体で評価を実施している。また、参考値として、事業中区間を含めた費用対効果も明記した。</p>
<p>十数kmもある区間と1km弱の区間を一緒に評価することには無理があるのではないか。</p>	<p>課題箇所は、一定の交通状況を示す主要交差点間の道路交通センサス区間毎に評価して抽出している。なお、抽出された区間については、事業の執行上必要な隣接区間とともに箇所として扱っている。</p> <p style="text-align: center;"> { センサス区間の平均延長約 1. 2 km センサス区間の約 9 割は延長 4 km以下 } </p>